

鍵盤楽器用アクション装置

実 願 昭 39-2 5
出 願 日 昭 38. 12. 28
考 案 者 隣比呂彦
門真市大字門真1006松下電器
産業株式会社内
出 願 人 松下電器産業株式会社
門真市大字門真1006
代 表 者 松下正治
代 理 人 弁理士 吉崎悦治 外1名

図面の簡単な説明

図面は本案の鍵盤楽器用アクション装置の1実施例の側面図である。

考案の詳細な説明

本案は鍵盤楽器用アクション装置に関するものであり、構造簡単製作および組立て調整容易なる楽器用アクション装置を提供せんとするものである。

一般に楽器用アクション装置は基本的に重要な特性として、鍵を演奏者が押した時、ハンマーはその慣性で瞬間的に発音体を打撃し、かつハンマーは発音体を打撃後発音体から十分な距離だけ離れていることが肝要であり、またダンパーは常時は一定圧で発音体を押圧して発音体の不必要な振動を防止して、演奏者が鍵を押した時ダンパーはハンマーが発音体を打撃する以前に速やかに発音体より十分な距離だけ離れて発音体の振動を妨げないことが必要である。

従来この種の装置の代表的な具体例としては、公知であるピアノ・アクション(JIS規格)が挙げられるが、これらの装置では主として発音体を打撃する機構に関するハンマー装置に、主として発音体の振動を止めるダンパー装置とはそれぞれが機構上独立した上で上記の特性を持たせているためにそのアクションの構造がきわめて複雑で且つ多くの調整箇所を有し、したがってその製作調整がきわめて困難なる欠点がある。

本案はそのような欠点を除去するものであり、以下本案の1実施例につき図面を参照して詳述すると、1は枢着ピン2により枢支された鍵であり

その鍵1上面にフェルト3をてん着し、後部にはスプーン5を植設する。4は鍵1に固着したハンマーフレンジであり、その上端はピン8をもつてハンマーシャンク7を枢着し、ハンマーシャンク7の後部上面にはフェルト11およびバットスキン10をてん着する。またハンマーシャンク7の前部上面にはハンマーウッド8を植設しその表面にはハンマーフェルト9をてん着する。バットスキン10の上部にジャック24の先端を当接して設け、その上端をピン28をもつてジャックフレンジ29に枢着しねじ28をもつてジャックフレンジ29をレール30に固定する。25はピン27に巻着したジャックスプリングであり常時はジャック24を時計方向に回転せしめるよう作用しているためジャック24の下端はハンマーシャンク7の後部上面のフェルト11に軽く接している。20はねじ19でレール30に固定したダンパーフレンジであり、その後端はピン18をもつてダンパーレバー15を枢着し、ダンパーレバー15の下端後面および前面彎曲部にはそれぞれクロス等の緩衝体13および14をてん着する。またこのダンパーレバー15の中央部にはレギュレーティングスクリュー16を設け、そのレギュレーティングスクリュー16の右端にはレギュレーティングボタン17を植設する。ダンパーレバー15の上端にはダンパーワイヤー31の左端を植設し、この右端にはダンパーウッド22を植設し、その下面にはダンパーフェルト23をてん着する。31は発音体である。

上述の装置において今鍵1の右端を押圧すると枢着ピン8は、鍵1の枢着ピン2を中心として時計方向に回転するが、このときジャック24の下端がバットスキン8を突いているのでハンマーシャンク7はその動きを拡大してその枢着ピン8を中心とし反時計方向に回転する。

更に鍵1を深く押圧すると鍵1の後端のスプーン5はダンパーレバー15の下端後面のクロス13に接しダンパーレバー15をその枢着ピン18を中心として反時計方向に回転せしめるのでレギュレーティングボタン17はジャック24の後面に接して、これをピン28を中心として反時計方向に回転せしめジャック24の下端とバットスキン10とのかみ合いが外れるよう作動する。ジャック24の下端とバットスキン10とのかみ合いがはずれて自由になった

